

[普及事項]

成果情報名：飼料用イネ新品種「つきあやか」の秋田県における栽培特性

研究機関名 畜産試験場 飼料・家畜研究部 飼料担当
担当者 西野 瞭・加藤真姫子・他1名

[要約]

「つきあやか」は極短穂茎葉型品種である「たちあやか」に縞葉枯病抵抗性を導入した新品種である。乾物収量は「たちあやか」、「夢あおば」と同程度で、穂重は「たちあやか」よりやや少なく、「夢あおば」の半分以下で、極めて少ない。

[キーワード]

飼料用イネ・イネ WCS・乾物収量・つきあやか

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

イネ WCS において、食用品種や東北向けの飼料用イネ専用品種は、穂の割合が高いため牛へ給与した際の消化性が悪い。そこで、農研機構から穂が小さく、茎葉割合と茎葉の糖含量の高い極短穂茎葉型品種が開発され、その一品種である「たちあやか」が本県の奨励品種に指定されている。この「たちあやか」に縞葉枯病抵抗性を導入した新品種「つきあやか」が新たに開発されたため、栽培試験を行い、本県における栽培特性を明らかにした。

[成果の内容及び特徴]

- 1 「つきあやか」の草丈は「たちあやか」（極短穂茎葉型・イネ WCS 専用品種）よりやや低い傾向があるが、「夢あおば」（イネ WCS・飼料用米兼用品種）より 15cm 程度高い（表 1）。
- 2 「つきあやか」は「夢あおば」と比べて穂長が短く、稈長が長い傾向がある（表 1）。
- 3 「つきあやか」の乾物収量は「たちあやか」、「夢あおば」と同程度である（図 4）。
- 4 「つきあやか」の穂重は「たちあやか」よりやや少なく、「夢あおば」と比べると半分以下であり、極めて少ない（図 4）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 収穫時期は黄熟期（出穂後 30～40 日頃）が望ましい。
- 2 詳しい栽培方法等は稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル（日本草地畜産種子協会発行）を参照すること。
- 3 茎葉割合が高いため、泌乳牛などの粗飼料に適する。
- 4 種子は日本草地畜産種子協会から販売予定（令和 5 年度播種用）。

[具体的なデータ等]

表 1 飼料用イネの生育特性

年度	品種名	調査日	(出穂日)	熟期	草丈 (cm)	穂長 (cm)	稈長 (cm)
R1	つきあやか	9月26日	8月26日	完熟期	142.0	11.8	109.7
	たちあやか	9月26日	8月26日	完熟期	124.2	14.2	100.0
	夢あおば	9月18日	—	黄熟期	97.7	22.2	80.1
R2	つきあやか	9月24日	8月17日	黄熟期	130.1	13.3	97.6
	たちあやか	9月24日	8月20日	黄熟期	136.4	15.7	102.1
	夢あおば	9月14日	8月11日	黄熟期	114.6	20.0	86.0
R3	つきあやか	9月28日	—	黄熟期	134.5	14.5	103.6
	たちあやか	9月28日	—	糊熟期	144.7	13.4	112.0
	夢あおば	9月28日	8月13日	完熟期	119.0	20.8	86.6



図 1 「つきあやか」の外観



図 2 「たちあやか」の外観



図 3 「夢あおば」の外観

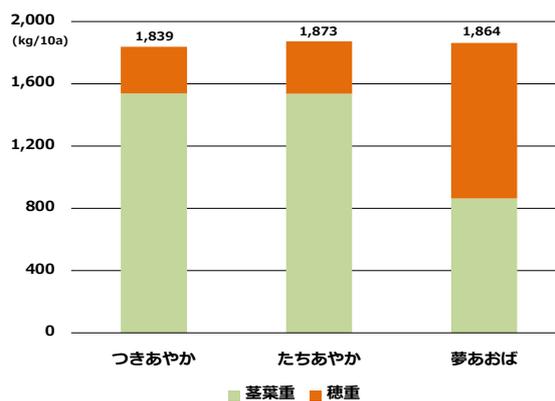


図 4 飼料用イネの乾物収量 (3年間平均)

[その他]

研究課題名：飼料作物奨励品種選定事業

研究期間：令和元年度～令和3年度

予算区分：配当（畜産振興課事業）

掲載等：令和3年度秋田県飼料作物奨励品種に指定